

振り返りシートから見る授業内の学生の変化 －学生の気づきとモチベーションの観点から

馬場 千秋

帝京科学大学総合教育センター 外国語科目

Improvement of Awareness and Motivation of University Students in the EFL Classroom:
Based on the Analysis of Reflection Sheets

Chiaki BABA

Key words : 振り返りシート, 学生の変化, ラポールづくり, モチベーション, 学生の気づき

1. はじめに

大学生の学力低下が社会問題になってから数年が経過している。実際に、英語英文系や国際系の学部学科に入学する学生を除くと、大半の学生は英語に対して苦手意識を持っていたり、英語嫌いであったりする。このような学生は、中学1年生の段階で英語に対しての苦手意識や嫌悪感を持つ(馬場, 2009)¹。そのため、授業には出席しているが、授業で扱った文法項目その他、学習すべき事柄を「習得」しない状態で大学に入学してくる。数年前には、大学生の英文法力が英検3級レベルであるとの指摘もあった²。多くの学生は、英語の楽しさや英語でのコミュニケーションを図ることができたという達成感を知らないのである。

このような学生に対して、我々大学英語教員は、単に英語を教えるだけではなく、Voller (1997)³ のように、カウンセラーやファシリテーターとしての役割を担う必要がある。そのためには、学生がモチベーションを高めることのできる授業を行うと同時に、授業を通して、学生の状況を知り、学生とのラポールを作ることが考えられる。Dörnyei (2001)⁴ は、基本的にモチベーションを高めるための状況を作り出す方略の1つとして、「学生との個人的な関係を築くこと (Develop a personal relationship with your students.)」を挙げている。そのためには、教員が学生のことを受け入れ、気にかけていることを示すこと、学生それぞれに注意を向け、話に耳を傾けること、教員の精神的、身体的な可能性を示すことの3つが挙げられている。

実際に学生との個人的な関係を作るには、授業中のインタラクションを録画することや、教員、学生

それぞれが授業を振り返り、記録することなどが考えられる。授業を振り返ることで、授業改善にもつながる。

授業改善のための研究にはアクション・リサーチがあり、佐野編 (2000)⁵ では、学習者へのアンケートやインタビュー、到達度テストなどを通じて、授業を振り返り、改善している例が紹介されている。また、鹿毛 (2006) は、授業中の教員の振り舞いや内面をとらえる枠組みとして、当初 Plan (授業前に考えていた Plan)、See (授業中に見取ったこと)、修正 Plan (見取ったことをもとに、授業中に考え直したこと)、Do (授業中に実際にやったこと) をそれぞれ記入するリフレクションシートの開発をし、授業改善に役立てている⁶。さらに、秋田・ルイス編 (2008)⁷ においても、授業改善のための様々な取り組みがなされている。これらの研究に共通するのは、教員同士の検討会が設けられていることである。しかし、全ての教育現場で検討会を行うことができるわけではないので、教員一人一人が自分の授業を見つめ直ししながら、学生とのラポールを作り上げることが望まれる。そのためにも、学生との定期的なインタラクションが欠かせない。クラスサイズが小さければ、授業中に複数回のインタラクションが可能なので、録画や教員による記録の作成だけでも振り返りは行えるが、クラスサイズが大きければ、なかなか学生1人ひとりに目を向けることは難しい。そこで、本稿では、クラスサイズの大きい授業において、「試行版振り返りシート」を用いて学生とのインタラクションを行い、学生の気づきやモチベーションの変化を観察しながら、学生とのラポール作りを行った結果を報告する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、

- (1) 学生による振り返りシートにおいて、学生はどのようなメッセージを教員に投げかけるのか
- (2) 学生による振り返りシートにおいて、学生はどのようなことに気づき、授業に対するモチベーションを変化させていくのか

を省察することである。

3. 調査方法

3.1 被験者

本研究の被験者は、東京都内、山梨県内双方にキャンパスのある私立大学の生命環境学部1年生のうち、筆者が2011年度前期に担当したTOEIC初級I(L)および2011年度後期に担当したTOEIC初級II(R)を連続受講した52名である。(実際の受講者は、両キャンパスともTOEIC初級I(L)、TOEIC初級II(R)それぞれ約60名である。)

3.2 手順

- (1) 筆者が2011年度前期(4月から7月)に担当するTOEIC初級I(L)および2011年度後期(9月から1月)に担当するTOEIC初級II(R)の履修者に対し、第2回目から第14回目の授業終了間際に試行版として作成した「授業振り返りシート」(資料1、以下、振り返りシート)を記入させ、回収する。1回目はオリエンテーションで、受講生が未確定のため、15回目は定期試験のため、振り返りシートの記入は実施していない。なお、前期7回目の授業では、時間の関係で振り返りシートを回収できなかったため、前期は12回分のデータとする。後期は13回の授業全てにおいて振り返りシートを回収しているため、13回分のデータとする。回収した振り返りシートはスキャナーで取り込み保存する。原本には、授業者である筆者が個々の学生へのコメントや質問に対する答えを記入し、次時に返却する。なお、このシートは、筆者の授業改善ならびに研究に使用することを予め学生には口頭で伝えてある。
- (2) 2つの授業の履修者で、前期・後期と連続受講していた学生の回答のうち、「今日の授業で発見したこと、わかったこと」「今日の授業でわからなかったこと、疑問に思ったこと」の項目に記述された内容に限定し、内容の傾向を分類

した。分類は、内容の傾向から「授業内容に関する記述」「英語の語法等(授業中に扱っていない事柄)に関する記述」「英語学習方法に関する記述」「学習環境(教室等)に関する記述」「自己の英語力に関する記述」「個人的なメッセージ」「記述なし」の7つのカテゴリーにて行った。

- (3) それぞれの記述の割合を算出し、量的な変化を分析する。
- (4) 学生のコメントを質的に分析し、学生の動機づけになったことや気づきを拾い出し、学生がどのような成長を見せているかを省察する。

4. 調査結果

4.1 「今日の授業で発見したこと・わかったこと」の分類結果

「今日の授業で発見したこと・わかったこと」の記述について、通年、前期、後期の割合は図1-3のとおりである。

通年、前期のみ、後期のみ、全てにおいて、授業内容に関する記述が70%を占める。また、10%程度の個人的な記述(授業者である筆者へのコメント等)が見受けられる。

毎回の授業でのコメントについての分類結果につ

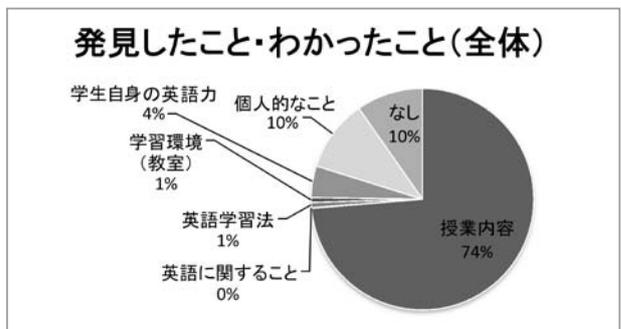


図1 「今日の授業で発見したこと・わかったこと」の割合(通年)

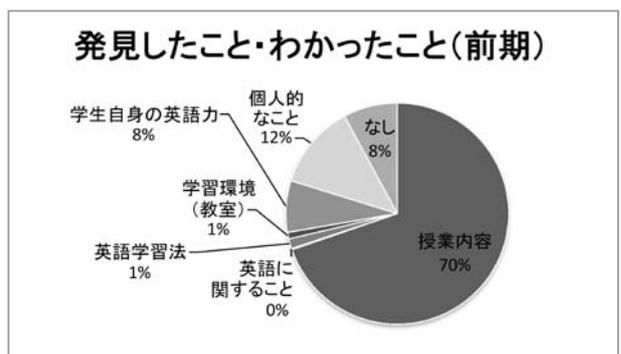


図2 「今日の授業で発見したこと・わかったこと」の割合(前期)

いては図4、5に提示する。

どの回も授業内容に関するコメントが大半を占める。シート回収の前期1回目と12回目、後期13回目に学生自身の英語力に関するコメントが増える。これは、TOEIC Bridgeの模擬試験（前期のTOEIC初級I(L)はListening Section対策なので、Listening Section50問、後期のTOEIC初級II(R)はReading Section対策なので、Reading Section50問)を実施した回で、受験後に学生自身が自分の英語力を判定し、コメントを書いていることが理由として挙げられる。

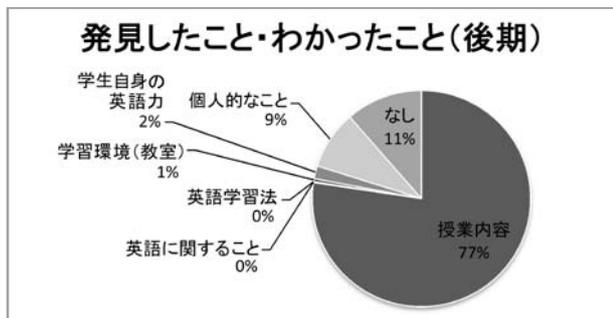


図3 「今日の授業で発見したこと・わかったこと」の割合(後期)

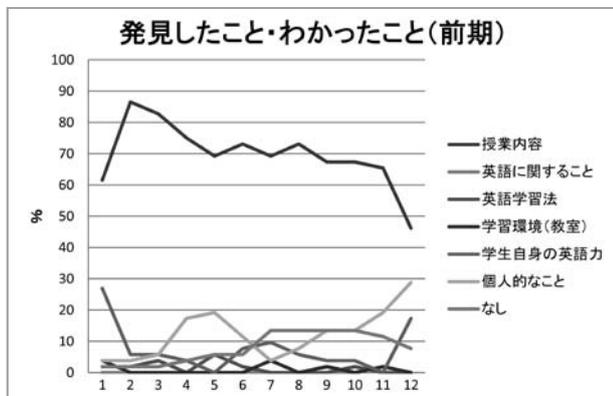


図4 「今日の授業で発見したこと・わかったこと」(前期:各回)

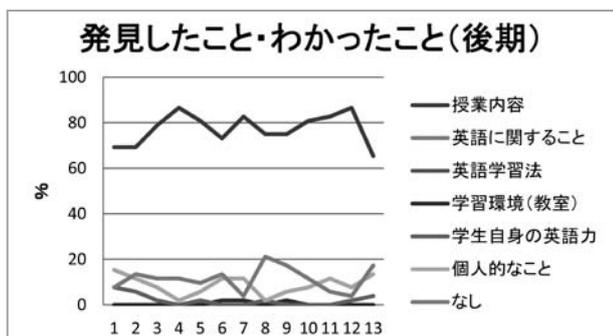


図5 「今日の授業で発見したこと・わかったこと」(後期:各回)

学生からの個人的なコメントについては、回によって差は見られるが、授業に慣れてくる5月以降に徐々に増えてきていることが特徴である。

学習環境については、使用しているマルチメディア教室の機器の使い方や、教室の冷暖房等に関するコメントが時々見られた。

4.2 「今日の授業でわからなかったこと・疑問に思ったこと」の分類結果

次に、「今日の授業でわからなかったこと・疑問に思ったこと」に関する記述について、全体、前期、

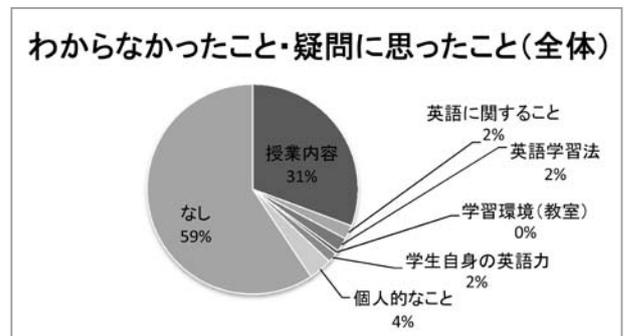


図6 「今日の授業でわからなかったこと・疑問に思ったこと」(通年)

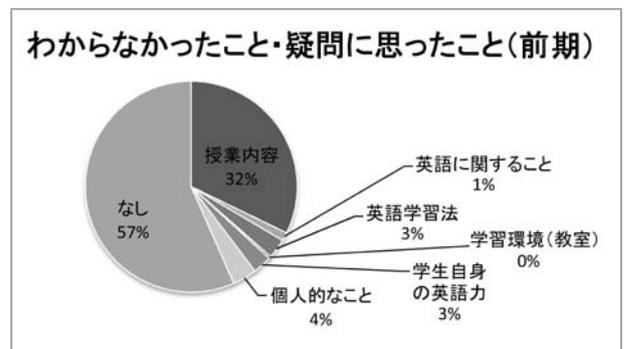


図7 「今日の授業でわからなかったこと・疑問に思ったこと」(前期)

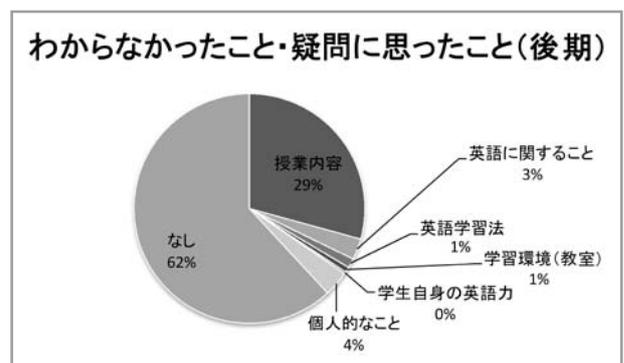


図8 「今日の授業でわからなかったこと・疑問に思ったこと」(後期)

後期それぞれの割合を図6-8に示す。

主として授業の内容について記述されているが、多くの学生は記述がない。ごくわずかではあるが、英語学習法に触れている学生もいる。

毎回の授業での回答については、図9、10に示す。

前期、後期ともに、特になしと書くか、記述をしない学生が最も多い。記述をしている場合、授業内容に関するものが多くを占める。前期のほうが、後期に比べ、コメントが多いが、リスニング対策の授業で、演習の題材として用いた音声が「聞き取れない」という回答がかなり目立っていることが特徴である。後期の回答がジグザグの線を描いているのは、文法中心の授業で、「解説→演習問題→問題解説」という手順で行い、はじめは理解できなくても、問題を解き、問題解説を聞くうちに、躓いていたところの理解が深まって、学生自身が「理解できた」と実感をしていることが要因と考えられる。

もう一つの特徴として、授業で直接扱っていない文法や語彙などに関する質問や、授業で扱った語彙の類義語や別の表現についての質問が後期にはわずかながら増えていることが挙げられる。授業を通じて、英語の様々なことに疑問を持ち、自分なりに学習したいという学生が気軽に質問できる場としており、シートへの回答が英語の知識を増やすきっかけづくりにもなっているといえる。

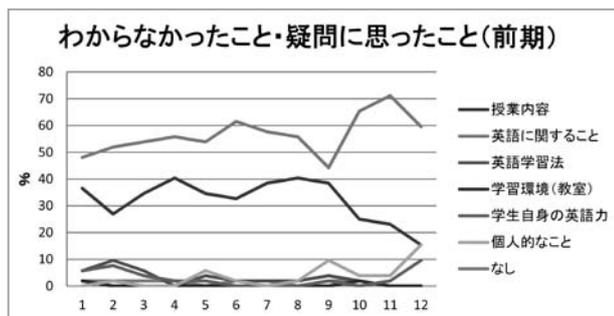


図9 「今日の授業でわからなかったこと・疑問に思ったこと」(前期：各回)

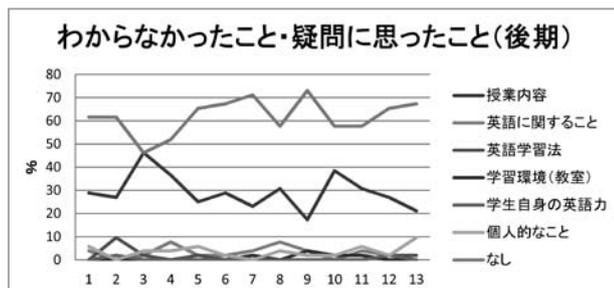


図10 「今日の授業でわからなかったこと・疑問に思ったこと」(後期：各回)

5. 考察

5.1 学生による振り返りシートに見られる学生の気づき

ここでは、振り返りシートへの学生からのコメントを省察し、学生がどのようなことに気づいたかを述べる。

4.1と4.2の全体的な傾向でも述べたように、授業内容に関する記述例が大半を占めたので、例をいくつか紹介する。

前期のリスニングセクションに関しては、聞き取りのポイントをかなり説明した。その結果、次のようなコメントが多く見られた。

学生A:「リスニングは全体を聞かなくても、要所を押さえればできると知った。」

学生B:「一語一句聞き取れなくても、ポイントを押さえればよいことがわかった。」

また、発音できる文は聞き取れることや英語の音の特徴についての説明も毎回行ったが、その際、出てきているのは、次のようなコメントである。

学生C:「英語はゆっくりしゃべったときと速くしゃべったときでは全然発音が違う。」

学生D:「ネイティブの発音は速いと消える音がある。」

学生E:「速く読むとtの音がほとんどされていないことがわかった。」

後期には、文法に関するコメントが多々あるが、何度か説明をしたことの1つとして、主語と動詞の一致がある。一例を示す。

学生F:「Everybodyが単数扱いだということを忘れていました。」(下線筆者)

学生G:「No one, everybodyが単数扱いだと初めに知りました。」(下線筆者)

上記にeverybodyについての発言を2つ列挙したが、everybodyが単数扱いであることは、年間の授業で4~5回扱う機会があったが、定着しにくかった項目の一つである。最後の最後まで、「everybodyは複数扱いですか?」と聞いてきた学生もいるほどである。

発言の多くは、学生が授業で行う活動を通じて、「実感」できたことや、中学高校で習ったが忘れていたことや、全く記憶になかったことである(学生F、Gの発言の下線部参照)。授業時に学生が「わからない」と感じたことについても、振り返りシートに具体的に記載するように伝えていたので、わからなかったこと・疑問に思ったことの欄への記載事項を通じて、筆者自身も翌週の授業で必ず復習や再解説を取り入

れた。復習、再解説後には「やっとわかりました」というコメントも複数見られた。また、期末に行っている学内の授業評価アンケートでも、「毎回振り返りシート等で、『もう一度解説してほしい』と書くと、詳しく説明して下さるので、大変良い授業だと思います。」という自由記載のコメントが見られた。学生が直接教員に授業に関する事柄を伝えることは難しいことであるが、振り返りシートによって、率直に意見を言う機会にもなっている。

紙面の関係で、紹介できたのは一部であるが、学生なりに授業内容を通じ、自ら気づき、それを実感していく作業を振り返りシートで行うことで、積み重ねが必要な英語学習の次の一歩へと進みやすくなっていると言える。

5.2 学生による振り返りシートから見るモチベーションの変化

次に学生のモチベーションに限定して、どのように変化したかを述べる。振り返りシートに書かれた記述の中でも、英語力についての自己評価、英語学習法、そして、個人的なことのコメントから省察をする。

英語力についての自己評価については、授業で扱った内容をどのくらい理解できているのか、その内容の得意不得意、演習問題の出来不出来、時間配分などが挙げられる。4.2で述べたように、問題が理解できるようになったかどうかについても評価として書かれている。また、演習問題や毎回課している単語テストの成績が悪い場合には、どのくらい自分が予習復習をしているのか、ということ振り返り、勉強不足の場合は反省をする。しっかり勉強してきている場合は、できていることを実感し、記入している。

英語学習法については、授業中に行う音読練習などが自分にとって効果があるかどうか述べるだけでなく、実際に英語力を伸ばすためにはどのような勉強が必要かを尋ねてくる学生もいる。中には英語学習法そのものがわかっていない状態から、授業中に行った方法が合うかどうか、自分なりに気づいていく様子も見ることができた。自分の英語力や勉強不足に気づき、もっと真剣に取り組む必要があることを実感し、「次は頑張る」というコメントを書いてくることも多くなった。具体的な英語学習法についてのコメントの例を次に述べる。

学生H:「リスニングでどこを注意して聞くのかとか、それをどのように判断するのか、「慣れ」でしよ

うか。」「リスニングの練習をしたいのですが、何がいいでしょうか。」「昨日、原宿で、外国人に時間を聞かれたみたいで、何となくわかったんですが、うれしかったので、報告します。」「高尾駅で『オーツキ』と紙を見せられたので、電車のことだと思うのですが、アジア系の人でした。」「日本人の英語と外国人の英語が違うのはなぜだろう」「長文読むのに効果的な方法はなんですか」

年間を通じて、この学生は英語学習への興味関心を示すコメントをしてきている。外国人と出会った時、授業で新たな課題を行うときなど、きっかけがあるごとにモチベーションを上げていると言える。

授業態度についても、振り返りシートを通じて、自己反省をする学生が後半になるにつれて増えた。今回対象の授業は、1時限目の開講だったので、眠くなる学生も時に見られた。そのような学生に対して注意を促すと、注意をされていない学生がその注意を自分に向けられたものととらえ、「眠くならないようにする」などの反省が書かれていた。出欠については、特徴的な学生としてIを挙げる。

学生I:「前の車が遅かったんです。間に合う予定でした。(後期1回目)」、「さすがにパトカーを遮る勇氣はなかったです。交通ルールを守った結果です。もっと早く家を出るようにします。(後期2回目)」、「次こそは次こそは、チャイムの前に席に着きたい。(後期6回目)」、「目覚ましをもう一つ買います。(後期12回目)」、「やっとやっと間に合いました。(後期13回目)」

この学生の場合、後期になり、遅刻が目立った学生である。自動車通学ゆえの遅刻の言い訳が多いが、本人の中で、絶対に遅刻しないで到着したい、という気持ちが日に日に強くなっていて、反省をしている様子がわかる。筆者も叱咤激励を続けてきたこともあるが、脱落を防げた学生の1人である。

4.2で述べた、授業で直接扱っていない事柄への質問についても、英語学習へのモチベーションが高まっている例と言える。今回の被験者には含まれていないが、後期にアジア圏の国からの留学生が1名受講しており、本人にとってあいまいな文法項目についての質問が多くあった。振り返りシートでのやり取りが復習をする機会となっていた。

全体的に見て、筆者自身が授業全体を通じて、「しっかり勉強しなければならない」という雰囲気作りをすると同時に、学生との人間関係を大切にするという姿勢を見せていたこともあって、学生も毎回の振り返りを通じて、自己反省し、遅刻欠席もほ

とんどせず、授業に真剣に取り組み、モチベーションが高まったことがわかる。ただし、わずかな数ではあるが、「わかったこと」として、取り扱った単語の意味を書いてくるのみで、遅刻欠席も他の学生よりも目立ち、注意しても反省しない学生がいたが、今後はこのような学生をどのように授業に集中させ、自分自身について振り返らせるようにするかが課題となる。

6. 今後の課題と教育への示唆

本稿では、試行版の学生への振り返りシートのコメントを省察したが、授業内容以外のことを頻繁に書いてくる学生もあり、現在、大学生に対して必要となってきた「生活指導」の一端を担える媒体として今後、活用をしていくことができるのではないかと考える。今後の課題は、筆者が担当する他の科目履修者の振り返りシートの回答傾向を見ること、授業を通じて英語力を伸ばし、英語学習へのモチベーションを高め、人間形成の援助ができるように、記載させる内容を再検討することである。よりよい振り返りシートの活用が、学生との活発なインタラクション、よりよい人間関係構築、よりよい授業提供につながると考える。

引用／参考文献

1. 馬場千秋：英語学習支援の試み（学習面とメンタル面のサポートの事例）. リメディアル教育研究, 4 (2):69-72, 2009.
2. 毎日新聞：新教育の森 低迷する英語力 大学がテコ入れ, 毎日新聞, 19, 2008年2月18日, 19, 2008.
3. Peter Voller: Does the teacher have a role in autonomous language learning?, Phil Benson and Peter Voller, *Autonomy and Independence in Language Learning*, Pearson, Edinburgh, 1997, 98-113.
4. Zoltán Dörnyei: *Motivational Strategies in the Language Classroom*. Cambridge University Press, Cambridge, 2001.
5. 佐野正之編：アクション・リサーチのすすめ—新しい英語授業研究. 大修館書店, 東京, 2000.
6. 鹿毛雅治：リフレクションシートの開発思想. 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター年報, 8: 27-31, 2006.
7. 秋田喜代美, キャサリン・ルイス編：授業の研究教師の学習 レッスンスタディへのいざない. 明石書店, 東京, 2008.

資料1：授業振り返りシート

授業振り返りシート (TOEIC 初級) 今日の授業を振り返ってみましょう。				座席
学籍番号	氏名	日付		
今日の授業で発見したこと, わかったこと				
今日の授業でわからなかったこと, 疑問に思ったこと				
次回の授業に望むこと				
今日の自己採点 (100点満点)				
馬場からのコメント				